

新・地域再生マネージャー事業

本市の「大館発！元氣プロジェクト」が、地域総合整備財団の「新・地域再生マネージャー事業」で、全国13件のうちのひとつとして採択されました。

財団のこの事業は、地域再生マネージャーなど外部の専門的人材を活用して地域再生に取り組む市区町村にその経費の一部を助成するものです。

市では23年度、総務省の事業により地域再生マネージャーとして小林詳子さんを派遣していただき、「比内地鶏」や「きりたんぼ」を初めとする大館の地域資源の磨き上げと大館産品の価値向上・情報発信に取り組んでいて、今回の採択により、活動に弾みがつくものと期待しています。

太陽光発電システムの導入

太陽光発電システムは、災害に強い自立・分散型エネルギーシステムで、節電対策としても有効なことから、東日本大震災での体験を教訓とし、災害時でも市民生活や都市機能を最低限維持するため、防災拠点等として活用できる公共施設15カ所に太陽光発電システムを導入することにしました。

24年度は、総合福祉センター、中央公民館、城西小学校、川口小学校の4施設に太陽光発電システムと蓄電池を設置する予定です。

本事業は、県の再生可能エネルギー

地域経済・雇用対策

等導入推進臨時対策基金事業を活用し、24年度から27年度までの4カ年事業で計画している、総事業費は4億5800万円、24年度の事業費は1億4800万円を見込んでいます。

この春の新卒者の就職状況は、市内高校、秋田職業能力開発短期大学校、秋田看護福祉大学での就職率がいずれも100%と、厳しい雇用情勢の中、全ての新卒者が就職できました。

4月のハローワーク大館管内の有効求人倍率は0.69倍で、昨年同期との比較では0.18ポイント増加し改善されていますが、景気の動向は依然不透明で、引き続き雇用対策が求められています。

「緊急雇用創出臨時対策基金事業」による24年度の雇用状況は、33事業で121人の雇用を見込み、5月31日現在、新規雇用者93人を含め32事業で114人を雇用しています。

また、24年度も引き続き大館商工会議所等が実施するプレミアム商品券発行事業に対する補助を行い、地域経済の活性化を図ります。

放課後児童の居場所づくり

放課後児童の安全で安心な居場所づくりに向け、3月19日に城南児童会館をリニューアルオープン、21日には有浦児童会館分館を開設して、児童の受

け入れを開始しました。

この2施設を初め、現在、市内18小学校のうち11校では、学校近隣の児童会館などを利用して厚生労働省事業の「放課後児童クラブ」を最長19時まで実施しています。

残りの7校では、学校の余裕教室を活用して文部科学省事業の「放課後子ども教室」を行っていますが、校舎管理の関係で、教職員の勤務時間が終了する17時までしか実施できていない現状にあります。

23年度の保護者アンケートで時間延長を希望する声が多く寄せられたことから、校舎内にシャッターなどを設置し、学校管理から独立した場所を造ることで時間を延長したいと考えています。



本場大館きりたんぼまつり in 大館樹海ドーム

「食」を通じて地場産業を活性化させ、きりたんぼを初めとする本市の特産品の情報をより広く発信するため、「本場大館きりたんぼまつり in 大館樹海ドーム」が10月13日、14日に開催されます。

「きりたんぼまつり」は、例年、長木川河川敷で開催されていましたが、秋

田デザインキャンペーンを見据え、交流人口の大幅な増加と盛りたんぼの産業化を図るとともに、秋田を代表する祭りに育てていくため、今年から大館樹海ドームを主会場として開催されることになりました。

現在、大館商工会議所の若手事業者で構成された実行委員会により、実施に向けて様々な取り組みが行われていますが、市では「きりたんぼまつり」が大館の活性化・産業の発展・人材の育成を図るための絶好の機会になるものと捉え、専任の職員を配置し、商工会議所の職員とともに準備を進めています。

そのほかの報告

- ・ 4月3日からの暴風による被害状況
- ・ 23年度の決算見込み
- ・ 公共事業の発注計画
- ・ 市民サービスセンターの利用状況
- ・ 乳幼児及び小学生福祉医療制度
- ・ 環境マネジメントシステムの取り組み状況
- ・ 養豚農場
- ・ エコ・アクション・ポイント事業
- ・ 福山通運の県営大館第二工業団地への進出
- ・ 大館市工場等設置促進条例に基づく指定工場の現況
- ・ 大館能代空港の現況
- ・ 23年度の除雪状況
- ・ 第60回山田記念ロードレース大会
- ・ 災害派遣医療チーム隊員養成研修への総合病院職員の派遣